

一般財団法人  
飛騨高山大学連携センター

# 令和3年度 事業報告書

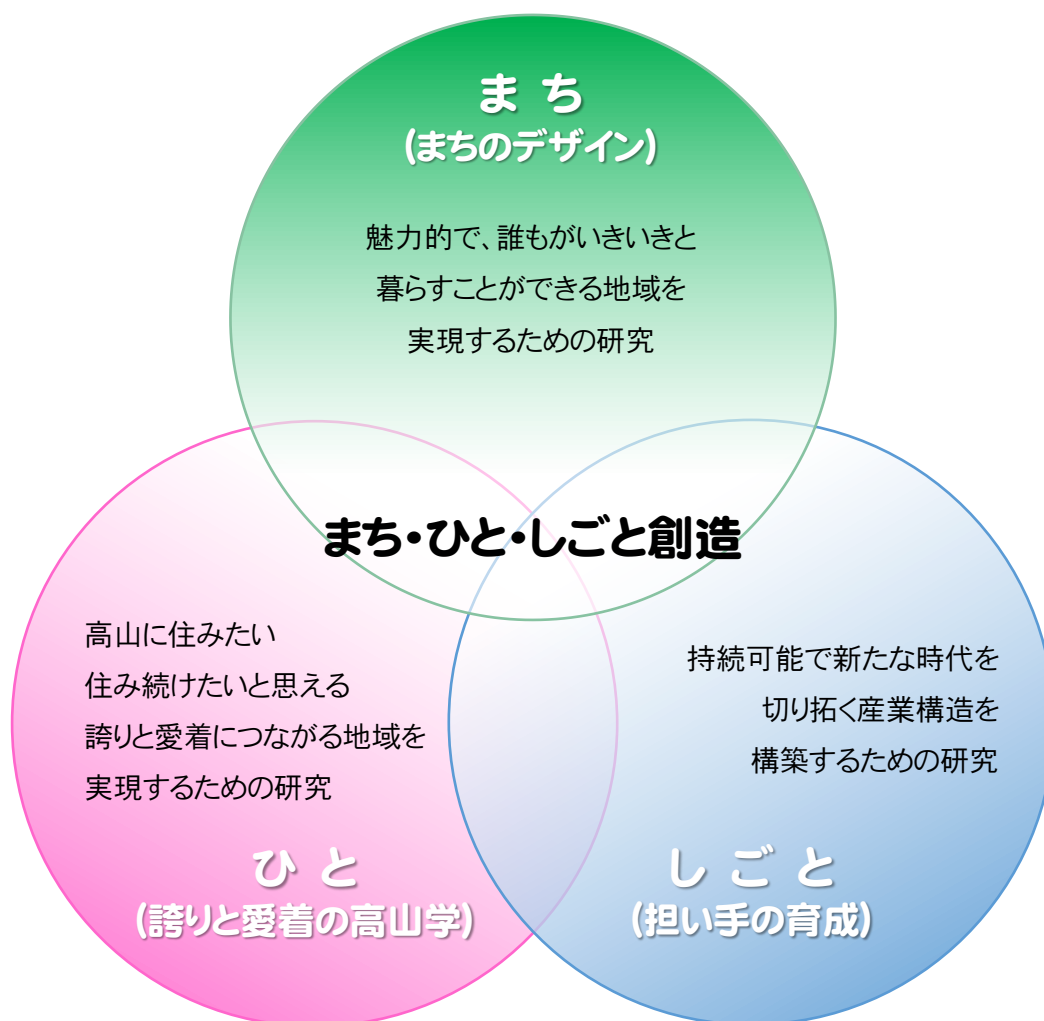
**Hida-takayama**  
Research Center of  
Regional Revitalization

大学が保有する高度で専門的な知見を活用し、高山市の「政策研究活動の充実・強化」「行政課題や地域産業、地域コミュニティ等に関する問題・課題の解決」「地方創生を担う人材の育成・確保」などの自治体シンクタンク事業に実践的に取り組んだ。

## 実施事業

- SDGsの推進に向けた取り組み
- 持続可能な観光まちづくりに向けた取り組み
- ヘルスツーリズムの推進に向けた取り組み
- 飛騨高山学会の開催
- 中部山岳国立公園の活性化の推進に向けた取り組み

## 調査・研究の3つの柱



## SDGsの推進に向けた取り組み

### 【実施形態】

高山市委託(受託)事業

### 【連携大学】

中部大学国際ESD・SDGsセンター



市職員研修会(グループ演習)



市職員研修会(講義)

### 【目的】

SDGs(持続可能な開発目標)は、2015年9月の国連サミットで採択された2030年を期限とする17の国際社会共通の目標で、あらゆる主体においてSDGsに関する取り組みが行われている。高山市においても、令和3年5月に政府が定める「SDGs未来都市」に選定されたこと受け、令和3年8月に「高山市SDGs未来都市計画」を策定し、SDGsの達成に向けた総合的な取り組みを推進することとした。

こうした状況を踏まえ、高山市の様々な主体による積極的なSDGsに関する取り組みを促進することを目的に、令和2年度に引き続き、行政(市職員)・市民・事業者を対象にしたSDGsの普及啓発事業を実施する。

### 【実施概要】

#### ○市職員研修会

期 日:①令和3年7月1日(木)、2日(金)

②令和3年11月8日(月)、9日(火)

会 場:①高山市役所 ②ひだホテルプラザ

対象者:課長級及び施設長級職員

方 法:大学教授、内閣府職員、SDGs先進自治体職員を講師に招いた集合研修

内 容:①分野横断型・部署横断型の取り組みの推進をねらいとする講義及び演習

②多様な主体の参加・協働による推進をねらいとする講義

③復習及び一般職員向け研修にも活用可能な研修教材(講義映像)の作成



研修素材(講義映像)

#### ○飛騨高山SDGsシンポジウム

期 日:令和4年2月19日(土)

会 場:高山市民文化会館 小ホール

内 容:飛騨高山SDGsパートナーシップセンター細田センター長(中部大学副学長)等による講演  
⇒新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の適用を受け中止

### 【成果等】

- ・市が市政(事務事業)をSDGsの17目標と関連付け(紐づけ)作業を実施し、SDGsチェックリストを作成した。
- ・市職員を対象とした研修会では、SDGsの達成に向けて高山市の経済・社会・環境の三側面における新しい価値を創出し、三側面をつなぐ統合的な取り組みをそれぞれのグループで検討する実践的な演習を行い、市の事業に関連した様々な提案を発表した。  
今回の研修をもって、令和2年度に策定した研修計画による全3回の研修が完結した。
- ・今後のSDGs普及啓発事業は、新たに設立された「飛騨高山SDGsパートナーシップセンター」が主体となり、当センターも含む多様な活動主体が連携して取り組んでいく。

## 持続可能な観光まちづくりに向けた取り組み

### 【実施形態】

高山市委託(受託)事業

### 【連携大学】

國學院大学 研究開発推進機構地域マネジメント研究センター  
(令和4年4月 観光まちづくり学部観光まちづくり学科を開設)



現地踏査(五色ヶ原の森)

### 【目的】

少子高齢化や人口減少などに伴い資源管理や地域社会の存続が危ぶまれる中山間地域では、地域の維持と次世代への継承が喫緊の課題となっている。また、観光地である高山市では、観光客の更なる回遊性の向上のほか、多様なニーズに応える魅力的な観光地づくりが大きな課題となっている。

このような課題の解決と活力あふれる持続可能な地域の実現に向けて、社会・環境・経済の三側面の調和のとれた発展による持続可能な観光まちづくりのあり方を研究するとともに、モデル地区において具体的な観光まちづくり活動を実践する。

### 【実施概要】

#### ○モデル地区の選定

- ・主要観光エリアの高山市街地と奥飛騨温泉郷、歴史的な地域資源が豊富な国府地域を含め「線」や「面」としての展開の重要な役割となる得る地域であること、また豊富な地域資源やまちづくり人材が連帯することで更なる地域力の向上が期待ができることから、「丹生川地域」をモデル地区として選定

#### ○専門家による現地調査

(その1) 期 日:令和3年7月16日(金)~18日(日)

目 的:地域概況の把握、取り組みの方向性検討

人 数:5名

(その2) 期 日:令和3年10月7日(木)~10日(日)

目 的:地域概況の把握、地域住民の現状認識・問題意識把握

人 数:4名

(その3) 期 日:令和4年3月24日(木)~25日(金)

目 的:専門分野に関するヒアリング調査・資料調査

人 数:2名



現地踏査(飛騨大鍾乳洞)

#### ○地域住民意見交換会

期 日:令和3年11月22日(月)

参加者:17名(観光業、農業、まちづくり協議会等の関係者)

話 題:地域の困り事、取り組みへの関わり方や進め方、國學院大学に期待することなど



座談会

### 【成果等】

- ・1年目の調査研究にあたり、高山市と大学と地域が取り組みの方向性や体制について、相互に認識を深め合意形成を行った。また、モデル地区とした丹生川地域の住民間の交流や意見交換会等では、事業実施に対する前向きな気持ちや期待が感じられるものも多く見られた。
- ・当面、3年間(令和3年度~5年度)の継続事業として実施予定

## ヘルスツーリズムの推進に向けた取り組み

### 【実施形態】

高山市委託(受託)事業

### 【連携大学】

松本大学 総合経営学部観光ホスピタリティ学科

### 【目的】

高山市の半数以上の観光客は宿泊を伴わない日帰り客であり、その多くは市街地中心部の古い町並に集中する傾向があることから、新たな観光サービスの提供などにより滞在型・周遊型観光を推進する必要がある。一方、新型コロナウイルス感染症を機に健康を意識する人々が増加していることから、地域固有の資源を活かしたヘルスツーリズムを構築することで、多様なニーズに応じた付加価値の高い観光サービスを提供できる可能性がある。

こうした状況を踏まえ、飛騨高山版ヘルスツーリズムの構築に向け、各地域に存在する地域資源を調査するとともに、目指すべきヘルスツーリズムのあるべき姿を策定する。

### 【実施概要】

#### ○資料調査

ヘルスツーリズムの領域、効能効果、国内外の先進事例、活用可能な地域資源など

#### ○専門家(教授2名)による現地調査・ヒアリング調査

期日及び調査地:

令和3年10月17日(日)～18日(月):丹生川町、国府町、高山市街地

11月15日(月):奥飛騨温泉郷、飛騨市

11月27日(土)～29日(月):荘川町、清見町、一之宮町

令和4年1月30日(日):宿泊事業者など

#### ○成果報告会の開催

期日:令和4年5月23日(月)

会場:飛騨・世界生活センター 会議室1

### 【成果等】

- ・ウォーキングや温泉療養などの固定的なメニューや特定地域に限定した体験で健康になるのではなく、飛騨高山の独特な暮らしを育んでいる個性的な10の資源を総合的に体感することにより心身の幸福感を総合的に高め、旅をきっかけに健康を意識する旅行スタイルを創造することを柱とする方向性をまとめた。これは、肉体・精神・心などもトータルでより良くある「ウェルネスツーリズム」といった観点で、市域全体を対象として自分好みのコンテンツを自由な組み合わせで楽しめられることから、多種多様な客層やニーズに応えられるほか、コンテンツを固定化しないため拡張性も有している。
- ・令和4年度も継続事業として実施予定



現地調査(酒蔵)



現地調査(荘川地域)



飛騨高山版ホリスティック・ウェルネス

## 飛騨高山学会の開催

### 【実施形態】

高山市委託(受託)事業

### 【目的】

『地域住民や地元小中高校生が大学や大学生と繋がる』『地元企業や経営者と大学が繋がる』『飛騨高山のまちづくりと先端的な手法・提案・技術が繋がる』『大学生の情報発信により、飛騨高山が国内外の多くの人と繋がる』『大学同士、大学生同士が飛騨高山を通して繋がる』ことを目的に、高山市をはじめとした飛騨地域を共通のキャンパス(フィールド)として調査・研究活動を実践している大学や大学生、地元の高校生、そして地域住民が集い、研究成果・活動成果の報告を行う発表会を開催する。

### 【実施概要】

名称: ~繋がるキャンパス~ 第3回飛騨高山学会

期日: 令和3年12月4日(土) ①まちづくり分科会  
12月5日(日) ②自然環境分科会

会場: 飛騨・世界生活文化センター

発表者: 24組(①13組、②11組)

《大学》岐阜大学、岐阜協立大学、名古屋大学3組、  
名古屋外国語大学3組、名古屋経済大学、  
愛知学院大学、東京都市大学2組、  
法政大学、目白大学2組、多摩大学、  
文教大学、高崎経済大学3組

《高等学校》斐太高校3組、飛騨高山高校

出展等: 9大学、飛騨高山高校

参加者: 来場者 約400人(①約210人、②約190人)

ライブ映像視聴者 約200人(①約130人、②約70人)



第3回飛騨高山学会チラシ

### 【成果等】

- ・来場者からは、「地域の課題を共有し、コロナ後の高山市の可能性について意識する良い機会となった」「会場とオンライン開催が良かった」「学会としての伸びを期待する」などの高い評価を受けた。
- ・来場した市内事業者より地域課題に関する連携提案が寄せられるなど、サブタイトルにある「繋がるキャンパス」が少しずつ形になりつつある。
- ・大学関係者からは、「高校生、大学生、大学教員、地元の方々がつながる素晴らしい場」「飛騨高山の豊かな歴史と文化の創造・発展・発信に関してより深く研究したい」などの意見が寄せられた。



発表ステージ



来場者からの質疑応答



出展ブース

## 中部山岳国立公園の活性化の推進に向けた取り組み

### 【実施形態】

岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会委託(受託)事業

### 【目的】

中部山岳国立公園は、雄大な山岳景観、高山植物などの貴重な自然や豊富な温泉といった豊かな自然環境に恵まれた国内屈指の山岳観光地で、多くの来訪者が訪れている。

しかし、近年は来訪者の減少が続いており、地域の活力の低下とともに、地域住民と行政の連携による自然環境や景観の保全活動が困難になることが懸念されていることから、中部山岳国立公園やその周辺地域の活性化による持続可能な地域づくりを進めることが必要である。

こうしたことから、岐阜県中部山岳国立公園の魅力を広く周知し、観光誘客や自然保護意識の醸成に繋げることを目的に、地元小学生・中学生・高校生や全国の大学生及び企業等による岐阜県中部山岳国立公園およびその周辺地域の活性化プログラムを募集するとともに、その成果発表や当該地域をフィールドに活動している大学研究者等による研究成果の報告等を行う発表会を開催する。

### 【実施概要】

#### ○活性化プログラム研究の募集、活性化プログラム研究に伴う現地調査活動の支援

《応募大学・高等学校》

- 文教大学、岐阜協立大学
- 東京都市大学
- 名古屋外国語大学(3組)
- 斐太高等学校
- 飛騨高山高等学校

#### ○大学研究者等による研究成果発表

- 岐阜大学・研究員
- 名古屋大学
- 斐太高等学校



高校生による現地調査(乗鞍岳・畳平)



高校生による現地調査(山椒製造工場)

### 【成果等】

・第3回飛騨高山学会(自然環境分科会)において、飛騨山脈をはじめとする多様な地域資源を活かしたニューツーリズムの提案や特産品を活用した新商品の開発、若年層をターゲットとした魅力を発信する仕掛けづくりなど、専門的な視点や若者の柔軟な発想による研究成果が発表された。

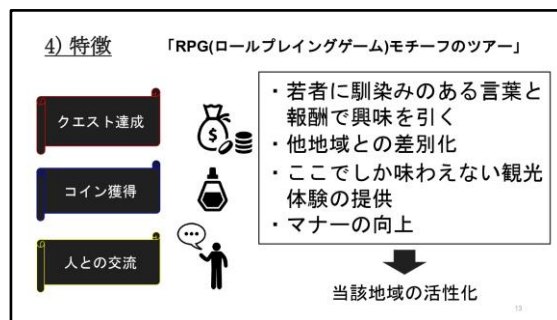
・令和4年度も継続事業として実施予定



第3回飛騨高山学会での発表



高校生が開発した新商品をブースにて販売



発表スライド抜粋

# 大学コミッション事業

将来的なU・I・Jターン就職や地元定着、関係人口の獲得を視野に入れ、大学が実施するフィールドワークやゼミ合宿などの様々な活動を誘致・支援し、多くの大学生が来訪・滞在・活動する高山市を目指して、大学コミッション事業に取り組んだ。

なお、コロナ禍における取り組みとして、ビデオ会議システムを活用したりリモートによる講義・事前学習などを積極的に支援した。

## 受入実績

年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
人数	1,472人日	1,997人日	来訪 214人日 リモート 205人日	来訪 252人日 リモート 264人日
大学数	33大学	35大学	24大学	18大学

## 大学活動の支援メニュー

- ゼミ合宿等に活用できる補助制度の案内、申請手続きの支援
- 市内で実施可能なゼミ内容や行程の提案
- 調査、研究などに必要な資料提供や事前講義
- ヒアリングや取材等への協力企業や団体、地域のキーパーソンのアポイント取得代行
- サテライトキャンパス(活動拠点)の提供、斡旋、紹介
- アンケート調査等に伴う施設使用手続きの代行
- 活動成果報告会等の開催支援
- 宿泊施設や食事場所などの情報提供
- 必要物品(プロジェクター、PC、音響設備、ポケットWi-Fiなど)の貸出
- アテンド対応、その他各種相談へのワンストップ対応 など

## 主な受入大学

### 名古屋学院大学 外国語学部

【日 程】 リモート:2回(同日)

【参加者数】 94人(教員1人、学生93人)

【活動概要】 ①ホテル研究 ②ホスピタリティ論研究  
・コロナ禍での飛騨高山の現状、対策について  
・宿泊施設の売上向上に向けての戦略 など

【成 果】 ・参加した学生からは、地元講師からコロナ禍の厳しい中におけるSNSやアニメなどのコンテンツを活用した誘客プロモーションの取り組みなどを聞き、飛騨高山に興味を持ち、実際に訪れたいとの感想が多くあった。  
・大学側は令和4年度の継続実施を希望





## 多摩大学 経営情報学部 帝塚山大学 経済経営学部

5年連続7回目

【日 程】リモート:2回

【参加者数】28人(教員4人、学生24人)

【活動概要】久々野町まちづくり協議会と連携し、地域が抱える課題などについて、若者・よそ者視点による解決方策を研究する。  
・地元中学生が考えた地域の魅力を基に、効果的な情報発信方法をグループで討議

【成 果】・久々野地域のインスタ映えスポットとして、りんごの木のメッセージボードの製作、りんごさるぼぼの製作、ひまわり園でのハーバリウムの販売、カメラスタンドの設置を提案した。



## 多摩大学 経営情報学部

5年連続8回目

【日 程】フィールドワーク:2泊3日

【参加者数】22人(教員等4人、学生18人)

【活動概要】上記の活動のフォローアップ  
・1回目の提案を踏まえた現地調査、地元関係者との意見交換  
・実施した情報発信方法の効果検証と改善策の提案

【成 果】・設置した現地で検証を行い、設置場所の再検討や効果的なPR方法など、より効果的な情報発信となるよう改善策を提案した。  
・大学側、地域側ともに令和4年度の継続実施を希望



## 東京都市大学 都市生活学部

【日 程】リモート:4回  
成果発表:1回

【参加者数】10人(教員1人、学生9人)

【活動概要】・高山市で多文化共生を推進することのメリットを調査研究  
・多文化共生支援団体と連携し、地元高校生や市民とともに高山市の多文化共生社会の未来を考えるイベント『Hida Glocal Forum 2021』で研究成果を発表

【成 果】・課題解決のため、ハード・ソフト面からの取組み、食文化を通じた理解促進、防災アプリの開発などの提案をした。  
・大学側は令和4年度の継続実施を希望



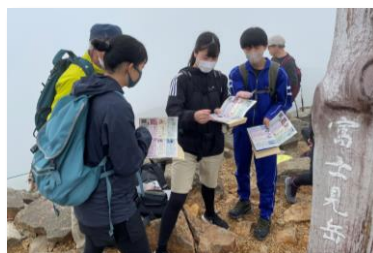
## 斐太高等学校地域活性化プログラム研究活動に対する支援

### 【目的】

高校生が行う地域の持つ魅力や地域が抱える課題を探究する活動を通じて、地域活性化や高校生に郷土愛やシビックプライドが醸成されるよう、探求活動に関する指導、助言、情報提供、取材の仲介などの支援を行う。

### 【実施概要】

- ・研究の進め方に関する全体講話(1回)  
SDGs講義(1回)
- ・個別相談会の開催(12回)
- ・メールによる指導、助言、情報提供、取材の仲介(随時)
- ・発表会等に参加する代表グループに対する個別指導(14回)



### 【成果等】

- ・令和2年度から続いてコロナ禍の様々な制約がある中でも、今できることを模索し、積極的に研究調査に取り組む姿が見られた。このプログラムの目的の一つである“地域の魅力”についての調査が多かったことから、生徒が調査の中で新しい発見を見出せた意義は大きい。また、「FRH研究の成果を実現するためには」という画期的なテーマもあり、プログラムに取り組む効果が表れている。



## 大学等と連携した中小企業の研究開発支援（産学金官連携促進事業補助金）

### 【目的】

高山市内の中小企業が行う新製品や新サービスの開発、新事業の展開及びブランド化を促進し、地域産業の活性化とブランド力の強化を図る。

### 【補助対象事業】

- ・1年以上継続して事業を営む市内中小企業が大学や国公立試験研究機関等と契約し、共同で実施又は異業種グループを組織して実施する新製品・新サービスに関する研究開発や製造又は生産方法に関する研究開発
- ・原則として製品の製造又はサービスの開発を高山市内で行い、製品化等が見込めるもの

### 【補助金の額】

- ・補助対象経費(原材料費、機械装置・工具器具費、共同研究開発費、委託費、外注加工費、技術導入費、旅費など)の2分の1以内の額で200万円を限度
- ・複数年にわたる研究開発を実施する場合の対象期間は3年間を限度とし、補助金の額は対象期間内の合計で200万円を限度

### 【交付実績】 なし

## ウェブサイト・SNS等による情報発信・情報提供

・当センターの事業や活動状況などをウェブサイト、Facebookで広く発信

～繋がるキャンパス～飛騨高山学会

第3回 飛騨高山学会

日時  
 ・令和3年12月4日(土) 午後1時15分～午後6時  
 ・令和3年12月5日(日) 午後1時15分～午後5時30分

場所  
 飛騨・世界生活文化センター 飛騨コンベンションホール (岐阜県高山市千鳥町900番地1)

第3回 飛騨高山学会発表情報

2021年度飛騨高山アクティブラーニングの取り組み ～インスタ映えするオブジェ制作とその効果の検証～	多摩大学経営情報学部
岐阜県高山市3地区における住居の観光に対する意識	高崎経済大学観光まちづくり研究室
飛騨牛と飛騨牛を用いた料理に対する高山市長の評語	高崎経済大学観光まちづくり研究室
6次産業化におけるマーケティングの現状と課題 ～岐阜県高山市および群馬県内の1次生産者へのインタビュー調査を通して～	高崎経済大学観光まちづくり研究室
飛騨高山地域での多文化共生推進方策の検討	東京都市大学都市生活学部
私たちが創る高山の多文化共生と未来	聖太高等学校 二年 地域活性化プログラム研究グループ
高山市における就労若者の子育て環境に関する現状と課題	目白大学人間学部
高山市における地域・暮らしと教育に関する現状 ～小中学生・中学生を対象とした2018年アンケート結果から～	目白大学人間学部
中心市街地の新しい集積場の復元【一部掲載】	名古屋経済大学経済学部
飛騨高山山崎並利稲文学の調査 ～地域創造文化に関するゼミの調査結果をめぐって～【一部掲載】	愛知学院大学文学部
高山市における都市OS活用の実践【一部掲載】	名古屋大学情報学部 名古屋大学大学院情報学研究科
高山市中心部におけるAIを用いた通行量データ収集とその分析【一部掲載】	名古屋大学大学院情報学研究科
小企業の「サステナビリティ経営」 ～SDGsへの取り組みを推進する高山市中小企業への支援～【一部掲載】	法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科 a-base consulting

ウェブサイトに学会のアーカイブや資料を掲載

一般財団法人飛騨高山大学連携センター  
作成: 江尻 登典 ● 2021年7月25日

【飛騨光と交流に向けた取り組みをスタート！】

飛騨高山大学連携センターでは、国学院大学の協力を得て、地域を主体とした観光と交流を軸としながら、活力あふれる地域の実現を目指す『飛騨光と交流』に関する調査研究を開始しました。

国学院大学は、観光まちづくり学部観光まちづくり学科（夜間）の協力を認可申請中で、社会学、地域計画学、観光学、造園学、公共政策学、経済・経営学、歴史学、農畜学、文化財学など、多彩な専門領域での研究実績を持つ教員が揃っています。

国学院大学ウェブサイト: <https://new-f.kokugakuin.ac.jp/>

その教員陣（各分野の専門家）5名に先日、調査研究のモデルエリアに設定した丹生川町を訪れていたとき、地域の特性を実際に見聞きしていただくとともに、関係者との意見交換を行っていただきました。

今後も専門家に丹生川エリアの分析を行っていただきながら、地域の関係者と地域の特長や課題を共有するとともに、専門家の助言や指導を頂きながら、地域の良いところを伸ばし、課題を克服するための具体的な手立てを模索していきます。

201 リーチした人数  
44 エンゲージメント数

一般財団法人飛騨高山大学連携センター  
作成: 北澤 博 ● 2021年12月9日

【飛騨山脈ヘルズツーリズムの構築に向けて】

当センターでは、岐阜大学観光経営学部 植山教授と中澤准教授と共同で「飛騨山脈ヘルズツーリズム」の構築のための調査をスタートし、高山市の地域資源をヘルズツーリズムの観点から考察するために現地調査を行っております。

11月27日～29日に萩川・清見、一之宮を中心にヘルズツーリズムに活用可能と考えられる地域資源について現地調査を実施しました。アクティビティ・温泉・地元食など高山ならではの地域資源を調査するとともに、地域住民と触れ合うことで高山という地域を知っていただくことができました。

今後も「飛騨山脈ヘルズツーリズム」の実現に向けて、調査や方向性などの検討をしていきます。

371 リーチした人数  
86 エンゲージメント数

Facebookで活動状況を発信



一般財団法人 飛騨高山大学連携センター

〒506-0032 岐阜県高山市千島町900番地1  
飛騨・世界生活文化センター内

TEL:0577-57-5366 FAX:0577-57-5377

<https://www.renkei-center.jp/>

facebook

<https://www.facebook.com/ht.renkeicenter/>

一般財団法人飛騨高山大学連携センター



活動状況を公開中